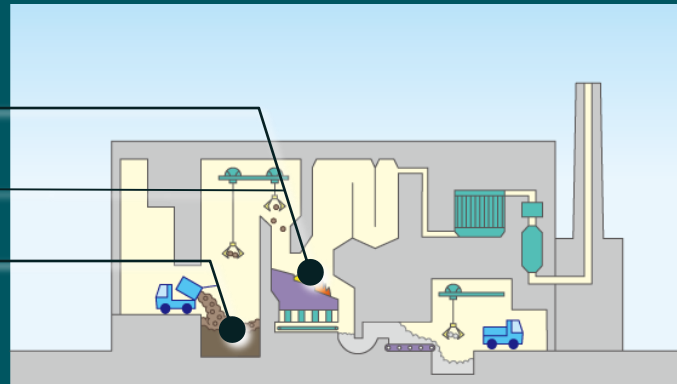


# 01 基本仕様

-2-

— TOPICS —

- 施設規模
- 炉構成
- ごみピット容量

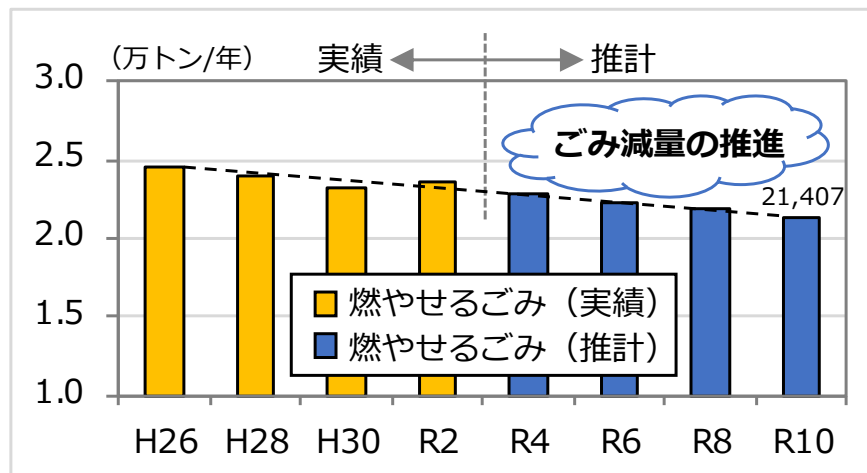


## 施設規模・炉構成 施設規模は100トン/日、炉構成は2炉構成と設定

### ◆施設規模

施設規模とは、施設が1日に何トンのごみを処理することができるのかを示すものです。将来にわたって安定してごみを処理できるように、施設規模は100トン/日が適切としました。

現在の施設規模が150トンだから、市民の皆さんのご協力で、ごみが減ってるんだね！



### 年間の計画ごみ処理量の算出

$$\begin{array}{l}
 \text{燃やせるごみ量} \\
 \mathbf{21,407} \text{ トン/年}
 \end{array}
 +
 \begin{array}{l}
 \text{粗大ごみ等の可燃分} \\
 \mathbf{670} \text{ トン/年}
 \end{array}
 +
 \begin{array}{l}
 \text{災害廃棄物処理量} \\
 \mathbf{4,463} \text{ トン/年}
 \end{array}
 =
 \begin{array}{l}
 \text{年間の計画ごみ処理量} \\
 \mathbf{26,540} \text{ トン/年}
 \end{array}$$

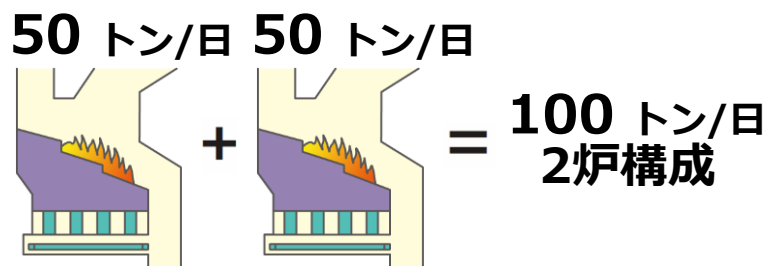
### 施設規模の算出 ※国が示す算出式

$$\begin{array}{l}
 \text{年間の計画ごみ処理量} \\
 \mathbf{26,540} \text{ トン/年}
 \end{array}
 \div
 \begin{array}{l}
 \text{実稼働率} \\
 \mathbf{280} \text{ 日}
 \end{array}
 \div
 \begin{array}{l}
 \text{調整稼働率} \\
 \mathbf{0.96}
 \end{array}
 =
 \begin{array}{l}
 \text{施設規模} \\
 \mathbf{100} \text{ トン/日}
 \end{array}$$

### ◆炉構成

炉構成は、運転の安定性やコストなどを考慮して、2炉構成が適切としました。

	新施設	現施設
施設規模	100トン/日	150トン/日
炉構成	2炉	2炉



## ごみピット容量 施設規模の7日分・約4,000m<sup>3</sup>と設定

ごみピット容量とは、ごみを焼却炉で処理するまでの間、貯留しておく設備（ごみピット）の大きさを示すものです。

ごみピット容量は、災害時や補修点検時に想定される必要な貯留日数・容量として、施設規模の7日分・約4,000m<sup>3</sup>が適切としました。

	新施設	現施設
貯留日数	7日分	3日分
ごみピット容量	約4,000m <sup>3</sup>	1,500m <sup>3</sup>



災害が発生した時や、施設が補修点検している時でも、ごみピット容量が大きければ安心だね！

